

令和元年度旭川市図書館協議会議事録

日時：令和元年7月9日（火） 午後1時30分～3時10分

場所：旭川市中央図書館 2階 視聴覚室

出席者（敬称略）

委員長 藤原淳

副委員長 光岡素子

委員 入谷望，加藤直子，斉藤美恵子，坂田真理子，関一男，谷口かほる，
内藤佳和，橋本みゆき

（委員10人）

図書館側

大鷹社会教育部長

岡島中央図書館長

立岩中央図書館副館長（東光図書館長事務取扱），角谷中央図書館副館長，

松山中央図書館副館長（中央図書館事務係係長事務取扱），沼田中央図書館副

館長（奉仕係係長事務取扱），川尻末広図書館長，福田永山図書館長，岳神楽図

書館長，板谷事務係主査，真鳥事務係主査，富田奉仕係主査，岡本奉仕係主査，

谷野奉仕係主査

次第

1 開会

2 委嘱状交付

3 挨拶

旭川市教育委員会社会教育部長

4 委員長選出

5 議事

（1）平成30年度事業報告について

（2）令和元年度事業計画について

（3）子ども読書環境整備促進事業について

（4）その他

6 閉会

提出資料

- ・ 令和元年度図書館協議会次第
- ・ 資料 1 平成 30 年度事業報告
- ・ 資料 2 令和元年度事業計画
- ・ 資料 3 旭川市子ども読書活動推進事業
 - (1) 平成 30 年度旭川市子ども読書活動推進事業の取組及び実績
 - (2) 令和元年度旭川市子ども読書活動推進事業の取組計画 (案)
- ・ 資料 4 緑が丘新施設に係る図書サービスの提供について (案)
- ・ 資料 5 「第 4 次旭川市子ども読書活動推進計画」の策定について

- ・ 参考資料
 - 1 旭川市図書館の館数・職員数及び利用状況等の推移
 - 2 図書館利用統計 (平成 29 年度と平成 30 年度の比較)
 - 3 旭川市図書館協議会委員名簿
 - 4 旭川市図書館職員名簿 (補職者以上)

会議の公開・非公開 全て公開

傍聴者 なし

協議内容(要約)

- (1) 平成 30 年度事業報告について
- (2) 令和元年度事業計画について
- (3) 子ども読書環境整備促進事業について
- (4) その他

(1) 平成 30 年度事業報告について

(A 委員)

図書資料整備費について、予算額 52,467 千円に対して 500 万円ほどの未執行部分について何か理由があるのか

(事務局)

市の予算で 10% は使用できないという留保額を設定する場合がありますが平成 30 年度の図書資料整備費については 10% の 5,246 千円が留保額として未執行となっている。

(A委員)

今年度も同じく留保額が設定されているのか。

(事務局)

昨年度、図書館協議会においてそういったお話がありましたが、今年度の予算としては留保額はなく予算額の全額執行できることになっている。昨年度と違い今年度は留保額はない。

(B委員)

貴重な市民の税金で、2億6300万円の予算が議会に承認されている。配布資料を確認したが図書館として慎重に執行していると感じた。事業報告として承認できる内容である。

(C委員)

事業活動費について、創意工夫されている取組が数多くあり、多くの市民に知っていただけると良いと考える。現在、予算の執行率が7割ということになっているが、事業について市民へのPRはどのような形で実施しているのか。また、読書環境整備促進事業で実施している、読書感想文コンクール応募数の前年比較はどうなっているのか。

(事務局)

事業が多岐にわたっていて、PR不足な面も否めない。今後改善を検討していきたい。

(D委員)

読書感想文コンクールについては主催者の立場である。かつては審査の人員が足りないほど応募があったが、減少傾向にある。

(E委員)

応募数は減ってきている。学校側として宿題として義務づけているわけではないことも要因ではないか。

(C委員)

応募数について校種別の推移が年によって大きく異なる理由についてはどう考えるか。

(事務局)

直接的な原因は把握してはいない。

(D委員)

学校現場にいる立場からとはなるが、6月の下旬頃から様々な団体から作文の募集依頼が来ている。その中から子ども達を選択する過程において、労力を要する読書感想文は避けられる傾向にあるのではないかと感じる。学校の国語教育の中にも読書感想文を書く内容があるので、先生方への働きかけ等取り組

んでいきたい。

(B委員)

人員について、29年度から30年度まで業務が増えていると思うが人員が削減されている。職員の負担となっていないのか。

(事務局)

正職員27名、嘱託職員55名であり嘱託職員が多い構成となっている。平成29年7月からは開館時間の拡充を行っており、現状負担はかかっているがなんとか運営している状態である。

(2) 令和元年度事業計画について

(A委員)

旭川市の市史については今後の見通しなど市民としてはどのようになるのか気になっている。担当部局は図書館ではないのか。市史の編纂予定等はどこに確認すると良いのか。

(事務局)

担当部局は総務部となっている。事業は現在中断しており市史編纂の予算はついていない状況と聞いている。

(F委員)

資料では、令和元年度の視聴覚資料について増えている理由は何かあるのか。他の資料については削減されているが視聴覚資料のみ増えている。市民の要望があったのか。

(D委員)

予算が増えるということは、何らかのニーズがあって増えたのではないのか。

(事務局)

事業計画については毎年大きくは動かしていない。視聴覚資料は総体として大きな金額ではないため差があると変動が大きくは見えるが、寄贈資料として受け取った分などで補い結果的に購入資料が減ったり増えたりと増減しているということである。

(3) 旭川市子ども読書活動推進事業について

特に質問等なし

(4) その他

【緑が丘新施設に係る図書サービスの提供について】

(B委員)

少子高齢化で人口が減っている中で、旭川医大にはおおよそ1,000人が市内外から受診している。地方を含めて大体6割くらいの割合で高齢者が多い。診療は午前中で終わり午後には帰る。医大を利用する高齢者のためにも近隣の緑が丘の新施設でサービスを展開することは必要であり、是非進めていただきたい。市民の立場から喜んでもらえるようなサービスを地道ながら今後も進めて欲しい。

(A委員)

緑が丘地域の住民は新施設における図書館サービスにはとても関心がある。自動車文庫が来ると言うことであるが、その時間帯のみ図書の貸し借りができるのか。それとも施設が開館している時間は常時開放しているのか、あるいは地域のボランティアの方が関わるということだが、ボランティアの方がいる時間帯だけの開館となるのか。

(事務局)

新施設のスペースの一部に書棚があり、そこに図書館の蔵書ではなく市民からの寄贈本等を設置する予定である。図書館の蔵書ではないため、必ずしも図書館の人員を常時配置する必要はなく施設自体の管理の方がいる間に自由に閲覧することができることを想定している。今後ボランティアの方とも話し合いを進めていく。

(D委員)

地域のボランティアがずっといるわけではないため、ボランティアの方が貸出や返却処理をするわけではなく、自動車文庫が週1回2時間程度滞在し職員が対応するということであるのか。

(B委員)

緑が丘地域に熱心なボランティアの方がいらっしゃるようであり関わっているようである。

(事務局)

現在地域で準備委員会を立ち上げ話し合いをしている。その中に図書館のボランティアの方も入り検討している。地域のボランティアの方はとても熱心に御協力いただいている。

(F委員)

図書館の運営にはボランティアの方が多く関わっているようであるが、負担とはなっていないのか。資料によると学校への読み聞かせもほぼボランティアの方が行っており頼りすぎではないかと感じる。学校のPTAで活動していただくことはできないのか。忙しい方は毎日活動している方もいる。おはなしの会の方にお伺いしたい。

(G委員)

図書館ボランティアを行っている立場である。楽しく充実しているがボランティア団体が立ち上がって10年以上経っているため、初期の会員が高齢化している。移動手段が自家用車ではなく公共機関を利用する方も増えている。仕事の合間を縫ってという方もいる。学校の読み聞かせでは子どもが卒業してしまうと、継続してボランティアを行っている方は少ないところもあると聞いた。

一般的にボランティアを確保するのは難しい。限られた予算の中でできる新しい施設は、ボランティアが協力しなければ成り立たない現状もあるのかもしれない。緑が丘地区の中で新しい事業にボランティアを募り長く継続していく事については大変さはあるのではないかと心配である。ボランティアの募集について、呼びかけによっては今までボランティアに縁のなかった方もきっかけとなって活動したり、子どもがいても子どもと一緒に場で参加するなど新しい広がりも考えられる。

(事務局)

資料3—(1)平成30年度旭川市子ども読書活動推進事業の取組及び実績の中で、学校での読み聞かせの実績8校31回、参加人数延べ1,619人、ボランティア人数41名とあるが、ボランティアの方に御協力いただいているのは3校でそのほか5校については自動車文庫が巡回に行った時に希望があった小学校に対して児童図書担当の司書が乗車し学校で読み聞かせを行っている。ボランティアの方の活動人数は年間をとおして41名となっている。

そのほか、読み聞かせボランティアの派遣事業も行っている。派遣先は児童クラブ・学校・地域の子どもの向けのイベント等であり、要望があればボランティアネットワークの協力をいただき派遣している現状である。PTAで読み聞かせをしたいという相談もあり、読み聞かせを勉強したい場合など、出前講座という枠があるので職員を派遣して本の選び方や読み方・絵本の紹介等アドバイスをしたり、ボランティア団体を立ち上げたい時などのサポートを行っている。そのほかボランティアの養成講座も現在実施している。ボランティアの負担が増えているなかで、養成講座で養成して新しい仲間も増えている。今後もボランティアのみなさんが活動しやすいようお手伝いしたい。

(D委員)

ボランティアの方は善意をもって活動を始めている。その方々が今後も気持ちよく活動できるようにしていくことが必要である。

【第4次旭川市子ども読書活動推進計画について】

特に質問等なし